

定例記者会見（R6.2.6） 記者発表（市長発言）

さくら市長の花塚隆志です。

本日は、令和6年度さくら市当初予算等の記者発表を開催するお知らせをいたしましたところ、報道機関の皆様には、ご多忙中にもかかわらずご臨席をいただき厚く感謝申し上げます。

まず、能登半島の大地震で失われた尊い命に心からお悔やみの祈りを捧げ、今もって極めて過酷な状況にある皆さまに対しまして、市民と共にお見舞いを申し上げます、我々にできることを誠心誠意、行なっていきたいと存じます。

物的支援につきましては、発災直後の二日から、市長有志のネットワークで、多くの状況が次々と届きました。自らも被災しながら、近隣の被害甚大な自治体支援に奔走する市町村長からの生のメッセージです。馳浩知事からの直接のメッセージも届きました。沸き上がるプッシュ型を整理して、現地までの交通状況を

勘案して、物資は金沢市の県指定場所に、等の内容です。それを受けて本市では、仕事始めと同時に支援内容を取りまとめ、県トラック協会塩那支部会員の高野商運様に協力いただいて、いち早く届けることができました。

内容は、発災七日以内にまず求められる、飲料水の500mlペットボトル2400本、簡易トイレ3000枚、防寒のための毛布438枚やアルミシート、ポンチョですね、500枚等でした。

人的支援については、協力依頼に基づき、穴水町及び志賀町<sup>しかまち</sup>又は輪島市へと、4名の職員を派遣致します。

そして今般、本市では被災者の受入支援について支援パッケージをまとめることができましたので、2次避難が開始されている最中ではありますが、これを被災地に向けて発出していきたいと考えております。資料2、26ページを参照ください。既に本市に来られている方々もおられる中、本市企業の方々からのお申し出もあり、まとめさせていただきました。当市に避難された場合の、住まいや暮らしへの支援であります。

まず、生活支援金として一人5万円を支援いたします。そして、市営住宅を家賃・駐車場無料で1年間提供、再延長ありでご用意し、民間事業者による民間アパート（3世帯分）も家賃無料で提供致します。入居場所が決まるまでの間には市内の協定ホテルを無料で提供いたします。加えまして、お米をお一人60kg、更に市営温泉無料券10枚を提供することと致します。子育て支援としては、保育料、一時預かり保育、ファミリー・サポートセンター、放課後児童クラブ、子育て短期支援事業の利用料を1年間無料とする他、給食費を無料とし、学用品や修学に必要な経費の支援、定期接種、新型コロナワクチン接種等の支援も行なっております。

被災地に対する義援金と致しましては、1月25日現在で約70万円を日本赤十字社を送らせていただいているところです。今後も、更に継続発展させていただきます。

それでは次に、早速令和6年度さくら市当初予算の

概要について申し上げます。

本市における令和6年度一般会計予算額は、前年度当初予算額207億9千万円に対しまして4.4%増の217億円となり、当初予算規模として過去最大の予算案となりました。

この予算執行によりまして、行政区重視の市政や中心街の機能強化等々に取り組み、本市が目指す将来像、さくら市での「暮らしが楽しめる健康・里山・桜の<sup>ま</sup><sup>ち</sup>小都市」の実現を目指してまいります。

まず、歳入予算について、お手元の「令和6年度さくら市当初予算の概要について」と題しました資料の16ページをご覧ください。

市税につきましても、経済社会活動の回復傾向を考慮し、対前年度比2.4%、1億5,435万円増の66億3,918万5千円を計上いたしました。

地方交付税は、前年度とほぼ同額の30億8,030

万円、繰入金は、額として過去2番目となる16億36万7千円を計上して、対応することといたしました。

繰越金は前年度と同額の4億円、市債は15億5,610万円を計上いたしました。

それでは、主な歳出予算について申し上げます。

資料22ページ、「令和6年度に取り組む優先・重点分野の主な事業」をご覧ください。

まず「物価高騰を克服する地域経済活性化策」では、農産物売上向上の支援として、新規作物の種苗代の補助対象に「さつまいも」を加え、作付けの拡大を推進いたします。

すぐ下の新規事業は、畜産等の臭気の軽減を目的とした飼料添加物や臭気拡散防止資材の購入費に対する補助制度で、とにかく、臭気減の実効を目指します。

次に地域支援と題して、商店街に関する直接的支援策、商店街街路灯 電気料の全額補助を実施いたします。

さらに、今般新たに全市で取り組むこととする、『中

心街の機能強化』策のひとつとして、空き店舗の解消を図るため改修費・家賃の補助額の大幅拡充を実施致します。中心街の空き店舗活用については新たに3年間の家賃補助等を行います。

次に②、「安心な暮らしのために（防災減災対策、医療・福祉の進化）」では、

自主防災組織の設立や防災教育、河川監視等を引き続き推進すると共に、避難所の機能強化や備蓄品の見直しを行うなど防災減災対策を推進してまいります。

そして1番下、地域共生社会を目指して、ひきこもり支援コーディネーターの設置を行い、本人や家族向けに相談窓口や居場所作りを行います。

次は23ページ、③「暮らしを楽しめるまちづくりの推進」であります。

市誕生以降、氏家地区は約4千人もの人口が増加しています。しかしながら歴史ある中心街については全国共通的課題として、顕著な減退傾向が見られるため、

新たに全市で取り組むテーマとして『中心街の機能強化』（再掲）を掲げ、歴史ある中心街の活性化に取り組んでまいります。

その取り組みとして、氏家駅東地区の魅力向上を目指した整備内容に関して、基本構想をより具体化した基本計画の完成を目指します。

喜連川地区の市街地におきましては、栃木銀行跡地等の活用・整備方針を定めて機能強化の取組を進めてまいります。

また、市全体を桜・花・緑で彩るための施策を統括的に進捗するため、「さくら市緑の基本計画（仮称）」を策定いたします。

さらに、伝統芸能を未来に引き継ぐための支援策として、伝統文化・文化活動等に対する助成制度を創設いたします。

その他、重要事項である公共交通「移動手段の進化」については、市が運行する乗合タクシーに対し、新型車両、AIを活用したデジタル運行システムの導入等、積極的改善を実行してまいります。

4つ目は、「さくら市の子ども達のために」であります。

先ずは、④の三つ目ですが、新給食センターの建設工事を開始いたします。

ひとつめ、二つ目の◎として、小学校施設整備、中学校施設整備が並んでおりますが、市立小中学校体育施設への空調設備を可能な限り早急に導入いたすべく、取組んでまいります。

さらに、24ページの1番上、子育て支援の更なる強化のため新たな取組といたしまして、◎施設型給付・地域型給付と題した事業ですが、右の通り、4月1日より第2子以降の保育料を所得制限なしで無償化し保護者負担の軽減を図ります。

放課後児童クラブの充実につきましては、利用者の増加に対応するため、より狭隘になっている南小地区で児童センターの開設に向けた取組みを進めます。

その他、心身の不調や育児不安など支援が必要な母子を対象とする産後ケア利用料の無償化を実施いた

します。

5つ目は、「カーボンニュートラルの推進」であります。

現在策定中の「さくら市気候変動対策推進計画」の運用を開始し、太陽光発電システム、蓄電池、電気自動車の導入に対する補助枠を拡充するなど、ゼロカーボンに向けた取組を進めてまいります。

6つ目は、「行政区重視の市政」であります。

行政区負担の防犯灯電気料の全額補助、生活道路の整備等を継続して進め、さらに地域環境の向上・活動の充実に利する建設的な要望・提言をいただいた場合の優先的な予算確保等に留意して、行政区活動への支援の充実を図ります。

また、生活道路の更なる整備向上を目的として道普請事業の補助額等の内容を拡充いたします。

7つ目は、「市制20周年に向けて」であります。

平成17年3月28日に発足したさくら市は、令和7年3月28日に市制20周年を迎えます。

令和7年3月に記念式典を開催いたします。また、令和7年1月から12月までを「市制20周年」を祝う期間とし、様々な記念行事を展開してまいります。

8つ目は、「増収のための施策の展開」であります。

ふるさと納税につきましては、令和5年度は、12月の時点で5億円を超えました。それでも今後の展開には一層の注力が必要となることから、取組の強化を図ってまいります。

今後は更に、個人ではなく法人を対象にした「企業版ふるさと納税」の展開を図ってまいります。

最後に、令和6年度予算編成にあたって、重点事項を1つ追加いたしました。「移住の促進」であります。

人口減少対策は、現下最大の政策課題のひとつであります。そのため、移住の促進について、これまでの取組を強化するとともに、本年は新たに、農業に特化

した移住促進の政策パッケージを確立してまいります。

また、移住促進に資する空き家対策等、空き店舗対策について積極的な施策を実行してまいります。

以上、令和6年の主な取組について申し上げます。

これらの施策の他にも様々な政策施策の実行を通じて、あらゆる世代の市民が「暮らしを楽しめる」小都市づくりを推進してまいります。市民の皆様には、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて次の内容になります。さくら市選挙管理委員会では、若者に向けた選挙啓発の一環として、18歳を迎え新たに選挙権を得た市民へ、メッセージカードを送付します。

これから活躍が期待される本市出身のスポーツ選手（ゴルフ・横山珠々奈選手）に御協力をいただきました。実物はお手元にあるものです。

以上をもちまして、私からの記者発表とさせていただきます。報道機関の皆様には、今後とも「さくら市」の事業を報道いただき、市民に情報を提供する重要な役割を果たしていただきますよう、引き続きよろしくお願ひいたします。